



飼育動物を対象に行動生態について研究しています

動物の行動 について研究を進めています

行動 (behavior) とは、動物 (生活体) が示す内外の刺激に対する反応の総体のことであり、体の移動に伴う活動的な反応から、体の一部に動きが制限される非活動的な反応など、個体が外界に対して表すいっさいの変化のこと

行動パターン、行動の規則性から

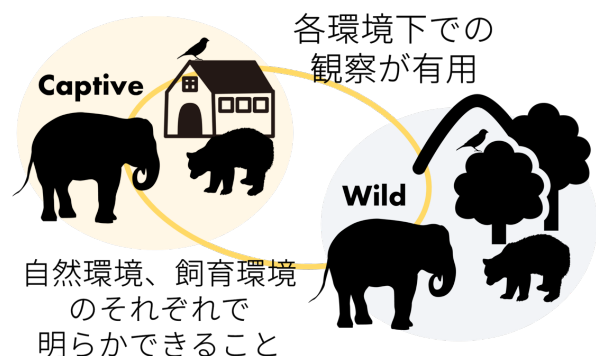
動物がなぜその行動をとるのか? を明らかにする

行動生態学...

動物の行動、生態、形態は自然淘汰や性淘汰を受けて「生存」や「繁殖」の成功度が高まるように作りあげられてきた、という観点から理解するための学問



生息域内外において飼養保管されている動物個体 (中型～大型の哺乳類および鳥類) を対象とした観察



自然環境とは著しく異なる飼育環境では、

「空間が閉鎖されていること」

「ヒトへの強い順化が起ること」

「安定的に餌資源が確保できること」

「制約による種々のストレスを受けること」

などの特殊な条件が認められるが、

自然環境における特異的な運動様式や日周活動、

および希少性の高さから、野外では観察が困難な動物種および時期についても飼育環境では、**個体および性別を識別して詳細な長期観察が可能**である



コミュニケーションおよび社会行動に関する研究

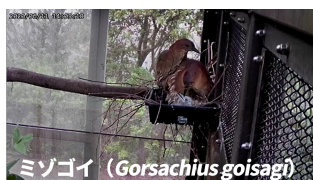
繁殖行動 (繁殖相手の確保、交尾、営巣、出産・産卵、育仔・育雛行動など) や出生仔の発育様態は、動物の社会を成立させる基本要素である

営巣～育雛の行動

母個体による授乳が必要な哺乳類と違い、**鳥類**は

産卵後の育雛を必ずしも雌親が担う必要がなく、繁殖時における雌雄の役割分担や、ヘルパー*の存在など、育雛様式が鳥類種によって多様である

* 自身の雛ではない個体を世話する (協同繁殖) 個体



ミゾゴイ (Gorsachius goisagi)

だれが (親、ヘルパー、雌雄)? どのように?

いつの時期に? どの役割を? どれくらい (投資量、期間)?



仔の成長発達と行動

Infancy (幼獣期)

- 親と密接関係 (吸乳-授乳行動など)
- 多相性睡眠 (昼夜の生活リズムの形成過程)
- 周囲の環境への興味関心の増加 (感受期)
- 親以外の個体との積極的な関わり (社会期)

Juvenescence (亜成獣期)

- 身体的発達による行動の活発化
- 単相性睡眠への移行 (昼夜の生活リズムの確立)

Adolescence (亜成獣期)

- 身体的発達 (性成熟)
- 精神的・社会的発達

Adulthood (成獣期)

仔の成長発達における様々な特性はいつ? どのように? 生じるのか



マレーバク (Tapirus indicus)

